

■平成 23 年度 催物案内

「伊藤慶二 こころの尺度 + 林武史 石の舞・土の宴」展

会期：2011年2月22日（火曜）から2011年5月8日（日曜）まで

土岐市出身、在住の伊藤慶二は、最も早い時期から、やきものによる立体造形を手がけてきた第一人者です。近年は「面」のシリーズで、全く新たな境地を示し、周囲を驚かせました。岐阜市出身で東京芸術大学准教授の林武史は、長年にわたって御影石によるスケールの大きな彫刻を制作し続けていますが、一方で従来にない体験型の作品を展開させています。素材も表現も異なる二人の作家によって創り出される「場」。現代美術の可能性をお楽しみください。

第 65 回岐阜県美術展

一般部：2011年6月4日（土曜）から2011年6月12日（日曜）まで

一般部は、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、グラフィックデザインの7部門からなる公募展。

青年部：2011年6月16日（木曜）から2011年6月19日（日曜）まで

青年部は、絵画、デザイン、立体造形、書道、写真の5部門からなる公募展。

少年部：2011年6月23日（木曜）から2011年6月26日（日曜）まで

少年部は、絵画・デザイン、書写の2部門からなる公募展。

ドキュメンタリー岐阜 135

会期：2011年10月12日（水曜）から2012年1月15日（日曜）まで

岐阜県は平成23年に飛騨美濃合併135周年を迎えます。岐阜県が誕生した明治9年（1876年）、明智町出身の山本芳翠は工部美術学校に入学し、フォンタネージに師事して洋画の勉強を始め、さらにパリに留学、帰国後は洋画の振興に大きな役割を果たしました。岐阜県は他にも、熊谷守一、前田青邨、荒川豊藏など近代美術・工芸の歴史に重要な業績を残した作家を多く輩出しています。

本展では、岐阜県誕生から現在までの135年の郷土と美術の歴史を、美術館所蔵品と創刊130年を迎える岐阜新聞所蔵のアーカイヴとを組み合わせさせていただきます。岐阜県のなつかしい写真と、同時代の美術の優品によって、135年のタイムトラベルをお楽しみください。

リニューアルオープン記念

初公開作品を含む県美コレクションの精髓による三幕の物語

第一幕：メセナが育む未来への遺産

田口コレクション、安藤基金コレクション

会期：2012年1月11日（水曜）から2012年2月19日（日曜）

第二幕：郷土作家逍遥

会期：2012年2月23日（木曜）から2012年4月1日（日曜）

第三幕：ルドン氏が見た夢

会期：2012年4月5日（木曜）から2012年5月13日（日曜）

第6回円空大賞展

会期：2012年2月10日（金曜）から2012年3月4日（日曜）まで

岐阜県ゆかりの江戸時代の修行僧「円空」。その精神を彷彿とさせる芸術家を顕彰することにより、岐阜の文化を振興し広く発信してゆくことを目的として、岐阜県では「円空大賞」が制定されています。

この展覧会では、その第6回受賞者の優れた成果を一堂に紹介します。